

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2018年 8月 9日

学籍番号	18PDB01	学系	コーチング学
氏名	小口 貴久		
学会等名 (正式名称)	ISBS2019 (37th International Conference on Biomechanics in Sports 2018)		
開催日程	2019年7月21日 ~ 2019年7月25日		
開催場所 (国・都市名)	Miami University (アメリカ合衆国・オックスフォード)		
発表演題名	PERFORMANCE ANALYSIS OF THE START PHASE OF SKELETON ATHLETES AT INTERNATIONAL COMPETITIONS		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> アメリカ・オハイオ州のマイアミ大学で行われた本学会には、130 を超える口頭発表とポスター発表があった。開催時期が7月下旬と、日本の大学の試験期間と重なったため、昨年度に比べると日本人の参加者は非常に少なかった。 スポーツバイオメカニクスの学会であり、陸上競技や水泳とともにバスケットボール、サッカー、野球、スキージャンプ、フィギュアスケートなど、様々な競技の研究が見受けられた。発表は、器具や障害予防、スポーツ実践など、いくつかのセクションに分かれており、類似した研究が同じセクションで発表され、関係者が集まり議論しやすい工夫がなされていた。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 冬季競技は、スキージャンプやフィギュアスケートの研究があったが、自身と同じそり競技に関する研究は見受けられなかった。しかし、過去にそり競技の研究を行っていた研究者に会うことができ、議論を交わすとともにつながりを作ることができた。 陸上の短距離に関する研究で、ピッチとストライドに関する者があり、自身のそり競技のスタート動作分析を行うにあたり非常に参考になるものであった。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> スケルトンというあまりなじみのない競技の研究であることから、わかりやすい発表となるよう心掛けた。以下のような質問をいただくことができ、今後の研究の中で検討していきたい。 ・スタート時のそりの位置は、どのように決めるのか。 ・各コースのスタートの傾斜の違いによる動作への影響はあるか。 ・イギリスでも一時期スケルトンの研究を頻繁に行っていたが、今は行っていないとのこと。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後2週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。